

白川郷スノーゲイン2017

2017年3月5日実施 快晴 会場：白川郷トヨタ自然学校



スノーゲインも2011年3月6日初開催から数えて6回目の開催となる。スノーゲインという競技が日本で初めて行われたのは、2006年長野県の菅平であったと思われるが、ネットを検索すると白川郷スノーゲインが最も多く出てくるようだ。他には北海道のスノーゲイン北海道 in ルスツがあるが……。つまり今や日本を代表する雪上ナビゲーション競技として確固たる地位を占めているということになる。スノーゲインと言えば白川郷スノーゲインを指すと言っても過言ではないということである。

しかし、限られた範囲のトレインで毎年開催ということになると、どうしても毎年同じようなコントロール位置となってしまうという問題もある。マンネリを避けるために毎年少しずつ調査をしてトレインを拡大してきている。今回は、南西部の鶴平新道上り口付近から北西方向ホワイトロード料金所にかけての部分が加わっている。この調査は、昨年の大会が終わった1週間後に行った。

まだ雪の残る中、特に日の当たらない北側斜面は、滑落の恐怖を感じながらスノーシューを外し、それをピッケルがわりに雪に突き刺しながらのコンタリングであった。この調査では、スマホのGPSアプリ（Geographica）が案外役に立っている。植生界など線状特徴物に沿って歩き、大きな特徴物は、位置が分かるようにその回りを回ったり、十文字の印をつけるように歩いたりする。このスマホGPSは、トラックは意外と正確みたいだが、ポイントは、マークしてもかなりずれる。そのためこんな手を

使っている。GPX データをメールで自分に送信しそれを OCAD にインポートをして記憶と照合しながら作図をしていくわけである。これでもよほど従来の方法より正確である。おそろべし無料アプリである。地図は、丁度 1 : 7 5 0 0 で A4 1 枚にぎりぎり収まった。従来の 1 : 5 0 0 0 A3 版とくらべると格段に携行しやすくなったと思われる。



今年の大会での大きな変更点として雪の森アウトドアフェスタの一環としてスノーゲインが開催されたことである。従来ファミリー、ビギナー、マスターの 3 クラスが設定されたが、今回は、ファミリーは、雪遊びが中心となり、スノーゲインは、マスター、ビギナーの 2 クラスとなった。従来はファミリー向けのコントロールも 2 0 個あったので全クラスを合わせると 5 0 コントロールであった。しかし、今回はその分を減らし総コントロール数は 3 0 個とした。ビギナーは、マスターへステップアップを目指す層とファミリーからステップアップしてきた層が混在することが想定されるので半分はやさしい位置に置いたが、残りはこれまでより遠い所、難しい所に置いた。いくつかは、小さな沢、尾根など難しい位置もあった。コントロールが減った事でレグが長くなり難易度もアップした。さらにトレイン中央の白谷を越えた部分にも設置してレベルの高い層にも満足してもらえるよう配慮した。

今回のスタッフはいつもの牧ヶ野御夫妻、落合さん、橋本に久々に復帰の林佳苗さんに加えてルーパーより鳥羽都子さん、前田悠作さん、朱雀より加納尚子さんという



屈強なメンバーにお手伝いいただいた。おかげで前日準備も順調に終了し、そろってフレンチ料理を堪能した。さらにテレビ初放送の「アナと雪の女王」の鑑賞会まで行いうという余裕であった。前回は夜の強風が吹いた記憶があるが、今年はとても静かな夜であった。

レース当日は、快晴、無風で雪もしまり快適なコンディション

である。積雪も 1.5m とやや少なめだが昨年の記録的な少雪と比べると絶好のスノーゲイン日和である。運営者にとってもありがたい。

予定通りスタート開始がされる。トレイン南端の大窪集落跡付近でレースを監視していたが、今年は、ファミリーコースがないこともあって通過する選手が少ないのが残念である。マスタークラスのうち4チームが下から鶴平新道を攻めて行き、2チームが反対回りに上から下りて来る。マスターに参加の親子チームの小学生は急な上りもものともせず余裕で上って行く。ビギナーは、ホワイトロードを越えて南側まで越えてきたチームはどうやら1チームだけのようであった。ビギナーのコントロールをあと2つほどこちら側にふやせば良かったと思われる。

結果は、マスタークラスは前回優勝の小松OLCチーム。雪の状態が良かったとはいえ2時間少々で全コントロール走破は驚きである。どうやら連覇を狙い、競技用軽量スノーシューを持ち込んできたということである。ビギナー優勝は、大橋親子チームである。今回はナビを息子さんが担当して全コントロール走破ということである。保育園のころから岐阜県協会の大会に参加してくれている息子さんも4月から6年生。さらなる成長を期待したい。なお大橋さんのブログ (<http://monolith.hida-ch.com/>)



にはスノーゲインについての記事が掲載されている。このようにみなさん真摯にスノーゲインに向き合って下さる方々がみえるということで運営する側としても大変うれしく、やりがいを感じられる。来年はさらに多くの方にスノーゲインを楽しんでもらうべくさらに工夫と努力を積み重ねて行きたいと思っている。

<今回スタッフとして参加して下さった方々のコメント>

参加しようと思っていましたがペアが見つからず、そんな時に運営に誘っていただいたので今回の参加になりました。全エリア山の中で、最近のロゲイニングの中でも異色？に入るし雪の中でちょっと非日常、かつフィジカルな要求も高く、レクというよりスポーツ的な要素が高いイベントでしたね。オリエンティアにとっても、ハイレベルな練習になりますし、とてもいいイベントだと思いました。来年はもっとロコミで参加者を上げようと思います！

<加納尚子さん>

この運営のことを聞いて以来、ずっと楽しみにしていました。期待に違わずの週末でした。印象に残ったのはコントロール設置です。雪で微地形や点状特徴物が消えてしまうので、距離・地形・植生から位置を割り出すのが、フット以上に気を使って面

白かったです。実際にコントロールが付くと、雪の中とても目立つので、参加者にとっては、簡単なのですけど（笑）家に帰って地図を見ながら、「来年はここにコントロール置くとどうかな？」と想像して楽しんでいます。常連の参加者さんも多く、全ポのバリエーション変化が必要ですよね。毎年のエリア拡大には頭が下がります！

ところで、橋本先生の講座を聞いていて思ったのですが、**rogaine**が発案者の頭文字ですから、スノーゲインじゃなくて、スノーロゲインに改称したほうがわかりやすいのじゃないかしら。ロゲインって、ログ（記録する）の活用形だと一年ほど前まで思っていたので、違和感なく受け入れていたのですが...。スノーロゲインって打ち出したら、加納さんの言うように、ナビゲーションや体力タスクも高く、冒険っぽさも楽しめるこのイベントは、ロゲイナーやオリエンティアが大挙して参加しそう！と思いました。

＜鳥羽 都子さん＞

3年ぶりのスノーゲインでしたが、選手や運営者として優れた皆さまと一緒させていただき、学ぶことの多い2日間でした。

今回のように、オリエン選手の方々にスタッフとして参加していただき、

白川郷スノーゲインの魅力（競技・料理・温泉）を体感、発信していただくことで、今後オリエン競技者の参加が広がると思います。オリエン競技者の参加が増えると、求められるものが厳しくなりそうですが...



名称については違和感を感じたことはありませんでしたが、「スノーロゲイン」はイメージがわかりやすいかもしれません。いろいろとお世話になりました！

＜林 佳苗さん＞

先日のスノーゲインはお世話になりました。童心に帰ったような、入部したてのときのような、ワクワクが止まらない非常に楽しいひと時を過ごせました。運営にお誘いを頂いて、また親身にしていただいてありがとうございました。参加者のみなさんにも、直接のお話やアンケートを見る限り、非常に楽しんでいただけたのではないかと思います。楽しいイベントがあればまたお誘いいただければと思います。機動力と若さ？を武器にお手伝いいたします。

大会に対してのコメントとしましては1点だけ。皆さんお話されていた通り、広報面では一工夫があるかもしれません。（楽しいイベントだけにもったいない！）やはりイ

14